

令和8年度
アビリンピック北海道大会
ワード・プロセッサ競技
【英 文 課 題】
（公開練習用）

北 海 道

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 北海道支部

「英文競技」の競技内容と注意事項

1 競技時間

- ・英文競技 60分 11:25~12:25

2 時間の管理

- ・時間管理は会場内のこの時計で行います。
- ・競技終了の10分前、5分前に合図を入れます。
- ・60分たちましたら、「止めてください」と言いますので、データを「上書き保存」して、マウスやキーボードから手をはなしてください。

3 競技に使用する機器及びソフトウェア

① ハードウェア

- ・デスクトップパソコン ・JIS 標準配列キーボード ・標準の2ボタンマウス

② ソフトウェア

- ・基本ソフト [Windows 11 Enterprise ltsc](#)
- ・アプリケーションソフト [Microsoft Office 2024 professional plus](#)

③ 操作環境の確認

- ・後ほど、5分程度でパソコンの点検をしていただきます。
- ・確認のポイント：マウス、キーボードの操作

Word を起動して文字の入力

課題で使用する画像データがUSB 内に保存されているか

4 競技の採点

- ①競技の採点は、大会当日に各選手へお配りする USB 内の指定されたフォルダに保存されたデータに対して行います。作成した課題（Word ファイル）は必ず指定されたフォルダに保存してください。（保存するフォルダは大会当日に指定します）

※作成した課題を指定されたフォルダ以外の場所に保存した場合、採点しませんので、ご注意ください。

- ②作成した課題を保存する際は、指定されたファイル名で保存してください。

5 競技の注意事項

- ・競技中のパソコンのトラブルに備えて、課題作成中はできるだけこまめにファイルを上書き保存してください。
- ・競技中にパソコンの調子が悪くなった場合は、手をあげてスタッフにお知らせ下さい。故障回復までの時間については、競技時間を延長いたします。
- ・競技中に具合が悪くなったとき、トイレに行きたくなったときは、手をあげてスタッフにお知らせ下さい。ただし、その時間は競技時間に含まれます。
- ・課題用紙はお持ち帰りいただけません。競技終了後、机の上に置いたままにしてください。

競技課題（北海道のジンギスカン）（制限時間60分）

以下の指示に従い、「別紙2＜作成例＞（公開練習用）」（全2ページ）の文書を作成し、保存しなさい。

- ✓ 「別紙1＜入力内容＞（公開練習用）」、「別紙2＜作成例＞（公開練習用）」の↵印は、1行あけることを意味するものとする（↵印は入力しないこと）。
- ✓ 英数字と指示のない記号およびスペースは、半角で入力する。
- ✓ 画像は、「WEB公開用画像提供データ」ファイルから挿入する。
- ✓ 指示したこと以外は、Wordの既定値を使用する。

文書の設定

※最初に「【R8. 英文課題】入力用提供データ（公開練習用）」ファイルを開き、以下の設定を行うこと。

1. 指定のファイル名で名前を付けて保存すること。

- 保存場所は任意とする。※競技では指定の場所に保存する。
- 保存ファイル名は「ゼッケン番号（数字のみ全角で入力） 北海道のジンギスカン」とする。
※ ゼッケン番号とファイル名の間には全角1文字分のスペースを入れる。

2. 用紙の設定をすること。

- 印刷面の余白は、上下左右それぞれ25mmとする。

3. ヘッダーの設定をすること。

- ヘッダーの右側に「ゼッケン番号（数字のみ全角で入力） 選手名（ひらがな）」を入力する。
※ ゼッケン番号と選手名の間には全角1文字分のスペースを入れる。
※ 選手名はひらがなで、姓と名は続けて入力する。

4. フッターにページ番号の設定をすること。

- ページの下部に「シンプル 番号のみ2」のページ番号を挿入する。
- フッターの位置は用紙の端から15mmとする。

5. ページ罫線を設定すること。

- 絵柄：
- 線の太さ：20pt

6. 最終行（最後の↵）から2ページ目が始まるように、改ページを設定すること。

7. **6. の続き（2ページ目の ↓）から文字入力を行うこと。**入力する内容は、「別紙1＜入力内容＞（公開練習用）」を見ながら入力すること。また以下の事項に注意して入力すること。

- 単語と単語の間には、半角スペースを入力する。
- 単語の次が「（」（カッコ）の場合も、間に半角スペースを入力する。
- 「，」（カンマ）、「．」（ピリオド）の後ろには、半角スペースを入力する。
※段落の最後の場合は半角スペースを省いてよい。
- 単語の最後の「）」（かっこじ）、「“」（ダブルコーテーション）の後ろには、半角スペースを入力する。
※段落の最後の場合は半角スペースを省いてよい。
- 「，」（カンマ）、「．」（ピリオド）、「）」（かっこじ）、「“」（ダブルコーテーション）以外の記号の後ろには、半角スペースを入力しない。
- 記号「【 】」は全角で入力する。

※ 「別紙1＜入力内容＞（公開練習用）」26行目の「21st」が、ワードの機能により自動的に「21st」（「st」が上付きになる）に変換された場合、そのままでよい。

※ 表の列幅は「別紙1＜入力内容＞（公開練習用）」の表を参考に設定する。

※ 表の列幅以外の書式の設定・編集内容については、入力後次ページの設問より設定する。

「別紙2＜作成例＞（公開練習用）」 1 ページ目の設定

1. タイトル「The History of "Genghis Khan" in Hokkaido」に対し、以下の設定を行うこと。

区 分	設 定 内 容
フォントのサイズ	20pt
フォントの色	青色系
フォントの書式	太字
段落	中央揃え

2. 「1. The Dawn of Sheep Farming in Hokkaido: A Legacy of Military Necessity」、
「2. The Birth of "Genghis Khan": Turning Necessity into Gastronomy」に対し、以下の設定を行うこと。

区 分	設 定 内 容
フォントの色	青色系
フォントの書式	太字、一重下線

3. 「1. The Dawn of Sheep Farming in Hokkaido: A Legacy of Military Necessity」下の文章中の「"One Million Sheep Plan"」に対し、以下の設定を行うこと。

区 分	設 定 内 容
フォントの書式	太字、文字の網掛け

4. 「2. The Birth of "Genghis Khan": Turning Necessity into Gastronomy」下の文章中の「"Genghis Khan"」に対し、以下の設定を行うこと。

区 分	設 定 内 容
フォントの色	赤色系
フォントの書式	太字

5. 「別紙2＜作成例＞（公開練習用）」を参考に、「WEB公開用画像提供データ」ファイル内の画像を挿入し、以下の設定をすること。

※ 画像の配置場所について、細かい差異は問わない。



①～③

区 分	設定内容
ファイル名	① 画像 1 . jpg ② 画像 2 . jpg ③ 画像 3 . png
文字列の折り返し	四角形

6. 「別紙2＜作成例＞（公開練習用）」を参考に、指定の図形を挿入し、以下の設定を行うこと。

※ 図形の配置場所、大きさ等について、細かい差異は問わない。



①

区 分	設 定 内 容
図形の種類	スクロール：横
入力文字	「Next Page」
フォントのサイズ	1 6 p t
図形のスタイル	塗りつぶしー水色、アクセント 4

「別紙2＜作成例＞（公開練習用）」 2 ページ目の設定

1. 「3. Regional Diversity: The "Marinated" vs. "Dipping" Traditions」、 「4. Modern Sheep Culture: The Rise of Suffolk and High-End Branding」 に対し、以下の設定を行うこと。

区 分	設 定 内 容
フォントの色	青色系
フォントの書式	太字、一重下線

2. 「4. Modern Sheep Culture: The Rise of Suffolk and High-End Branding」 下の文章に対し、（1）～（2）の設定を行うこと。

- （1）文章中の「【About Suffolk】」「【Next Movement】」に対し、以下の設定を行うこと。

区 分	設 定 内 容
フォントの書式	太字、斜体

- （2）文章中の「【About Suffolk】」から「…, giving the sheep new multifaceted value in the 21st century.」までの9行に対し、以下の設定を行うこと。

区 分	設 定 内 容
段落	種類：二段、境界線を引く
段区切り	「【Next Movement】」から二段目が始まるように段区切りを入れる

3. 最後の段落のタイトル「Conclusion」に対し、以下の設定を行うこと。

区 分	設 定 内 容
フォントの書式	太字、囲み線

4. 2 ページ目の表に対し、以下の設定を行うこと。

区 分	設 定 内 容
1、3 行目	セルの塗りつぶし 薄い青色系
	フォントの色 白色系
	フォントの書式 太字
2、4 行 2 列目のセル	セル内の揃え 中央揃え

5. 「別紙2＜作成例＞（公開練習用）」を参考に、「WEB公開用画像提供データ」ファイル内の画像を挿入し、以下の設定をすること。

※ 画像の配置場所について、細かい差異は問わない。



④⑤

区 分	設定内容
ファイル名	④ 画像 4 . jpg ⑤ 画像 5 . jpg
文字列の折り返し	行内

⑥⑦

区 分	設定内容
ファイル名	⑥ 画像 6 . png ⑦ 画像 7 . jpg
文字列の折り返し	前面

文書全体の調整

1. 「別紙2＜作成例＞（公開練習用）」を参照し、改行位置や折り返し文字列の確認、表の罫線や画像の配置などを調整し、作成課題の見直しを行うこと。
2. 上書き保存をすること。

本課題文は、一般的な事実に基づき、生成 AI（Gemini、ChatGPT）を活用して作成した原案をもとに、競技専門委員及び事務局において内容の確認・編集を行ったものです。なお、本課題中に記載された名称等は、各権利者に帰属する商標、登録商標または通称です。

3. Regional Diversity: The “Marinated” vs. “Dipping” Traditions

↓

The Marinated Style (Takikawa and Central/Northern Sorachi)	
This style involves marinating the meat in a rich sauce of apples, onions, and spices before grilling.	
The Dipping Style (Sapporo and Central Hokkaido)	
The mainstream style involves grilling raw meat or “roll lamb” (thinly sliced frozen meat) and dipping it into a specialized sauce after it is cooked.	

↓

↓

Other regions, such as Muroran, Hakodate and Tokachi area, have also developed their own secret sauce recipes and cutting techniques, passed down through generations.

↓

↓

4. Modern Sheep Culture: The Rise of Suffolk and High-End Branding

【About Suffolk】

In recent years, the focus has shifted from mutton to “Lamb” (meat from sheep under one year old), which has a milder flavor. In particular, the “Suffolk” breed, known for its black face and superior meat quality, has become a premium brand.

【Next Movement】

Towns like Shibetsu and Shiranuka are now famous for producing world-class lamb that is highly sought after by top-tier restaurants nationwide. Furthermore, there is a burgeoning movement to revive “100% Hokkaido-grown wool” for high-end textiles and handicrafts, giving the sheep new multifaceted value in the 21st century.

↓

↓

↓

※ 「21st」 が、ワードの機能により自動的に「21st」
（「st」が上付きになる）に変換された場合、その
ままでよい。（この赤枠内の文章は入力しないこと）

Conclusion

Genghis Khan is more than just a meal; it is a symbol of the wisdom of pioneers who refused to let resources go to waste. Today, it is an essential part of Hokkaido’s social fabric, appearing at cherry blossom viewings, summer festivals, and family gatherings.

↓

The History of “Genghis Khan” in Hokkaido

↓

1. The Dawn of Sheep Farming in Hokkaido: A Legacy of Military Necessity

Around the Taisho era, as Japan rapidly modernized, the self-sufficiency in wool for military gear became a matter of national security. In 1918, the Japanese government launched the “**One Million Sheep Plan**”, establishing breeding farms across Hokkaido. Areas such as Tsukisamu in Sapporo and Takikawa became pioneers in this movement. The



climate of Hokkaido proved ideal for raising sheep, and thus, sheep farming became firmly integrated into the island’s agricultural identity.

↓

↓

2. The Birth of “Genghis Khan”: Turning Necessity into Gastronomy



After World War II, the demand for wool declined, forcing people to find ways to consume the meat of older sheep (mutton).

To better enjoy mutton with its strong, distinctive aroma, a new dish which was named “**Genghis Khan**” (Jingisukan) was conceived. The smell of the mutton was masked by a robust sauce based on soy

sauce, garlic, ginger, and fruit. The dish features meat and vegetables grilled on a unique, helmet-shaped iron skillet. Although its exact origin is debated, the name is believed to be inspired by the Mongolian conqueror Genghis Khan, projecting an image of a stamina-building meal fit for powerful warriors.



↓

Next Page

3. Regional Diversity: The “Marinated” vs. “Dipping” Traditions

↓

The Marinated Style (Takikawa and Central/Northern Sorachi)

This style involves marinating the meat in a rich sauce of apples, onions, and spices before grilling.



The Dipping Style (Sapporo and Central Hokkaido)

The mainstream style involves grilling raw meat or “roll lamb” (thinly sliced frozen meat) and dipping it into a specialized sauce after it is cooked.



↓

↓

Other regions, such as Muroran, Hakodate and Tokachi area, have also developed their own secret sauce recipes and cutting techniques, passed down through generations.

↓

↓

4. Modern Sheep Culture: The Rise of Suffolk and High-End Branding

【About Suffolk】

In recent years, the focus has shifted from mutton to “Lamb” (meat from sheep under one year old), which has a milder flavor. In particular, the “Suffolk” breed, known for its black face and superior meat quality, has become a premium brand.



↓

↓

↓

Conclusion

Genghis Khan is more than just a meal; it is a symbol of the wisdom of pioneers who refused to let resources go to waste. Today, it is an essential part of Hokkaido’s social fabric, appearing at cherry blossom viewings, summer festivals, and family gatherings.

↓

【Next Movement】

Towns like Shibetsu and Shiranuka are now famous for producing world-class lamb that is highly sought after by top-tier restaurants nationwide. Furthermore, there is a burgeoning movement to revive “100% Hokkaido-grown wool” for high-end textiles and handicrafts, giving the sheep new multifaceted value in the 21st century.

